

省エネ改修 ビジネス のすすめ

第6回

欧州最大級の建築・建材メッセ「BAU2015」レポート

中谷 哲郎



1972年生まれ。元リフォーム産業新聞取締役編集長。2012年に退社し、株式会社日本エネルギー機関（JENA）を設立、代表取締役就任。ドイツ在住環境ジャーナリスト、村上敦に師事し、日本へドイツの省エネ建築のノウハウを提供する。

今回は通常の省エネ改修の話題から少し離れて、今年1月16日～21日にドイツ・ミュンヘンで開催されたイベントのレポートをいたします。

ドイツの南側に位置する、バイエルン州。その州都ミュンヘン市で2年に一度開催されているのが、ヨーロッパ最大級の建築・建材メッセ「BAU（パウ）2015」です。

もともと空港だったところの跡地利用として1998年にオープンしたこのメッセ会場は、全部で17ホール。屋内の展示場面積は18万㎡。東京ビッグサイトの2倍以上の展示スペースに、数千社の企業が展示をしています。6日間の開催でなんと世界各国から25万人以上が来場したそうです。まさに世界最大級の規模と言って過言ではないでしょう。

私、中谷は2回目ですが、前回は、日独国交省の政府間会議が同会場内で行われたため、そちらへの出席がメインだったので、メッセはほとんど見学できませんでした。今回はしっかり2日間見学してきました。そのなかから注目の建材、注目のブースをご紹介します。

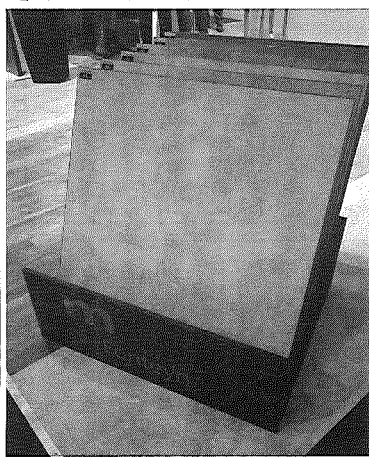
まずは木質系建材の中で、注目の建材 & ヨーロッパのトレンドをご紹介します。

木質系建材ブースを眺めていると3つのトレンドが見えてきました。それが以下の3点です。

- 1、アンティーク、エイジングデザインの商品が多い！！
- 2、高層建築に使える木質構造材の出展が多い！！
- 3、木質断熱材の出展企業が多い！！

それぞれを細かく見ていきましょう。

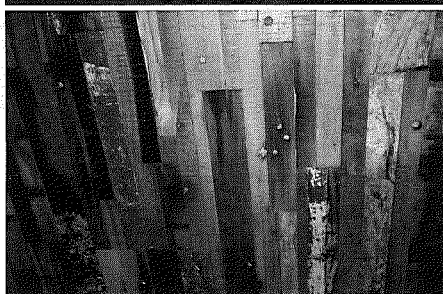
【1、アンティーク、エイジングデザインの商品が多い！！】



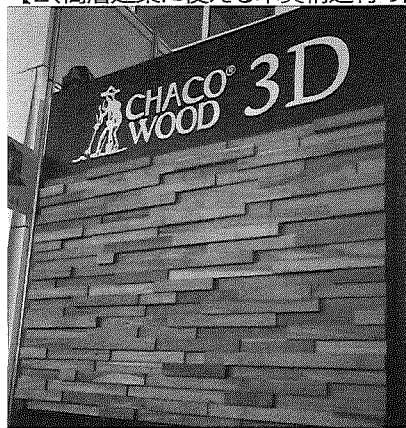
「m FLOR」のエイジング加工のフローリング材。

フローリング、内装建具などの内装材は、アンティークっぽい加工、エイジングっぽい加工を施したものが結構多かったですね。シンプルなものより、ややクドイかなというくらいの加工が施されたものが多く見受けられまし

「HAFRO HOLZAGENTUR (オーストリア)」



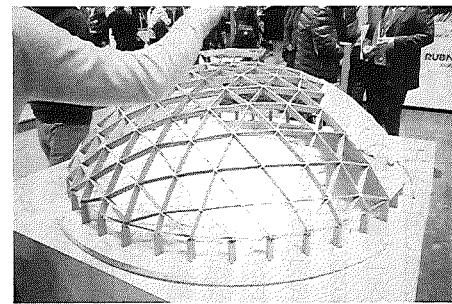
【2、高層建築に使える木質構造材の出展が多い！！】



「INPA parket (オランダ)」の3D内装材

中でも「HAFRO」とか「mFLOR」といったメーカーのブースが人気でした。木質系のなかの今年のトレンドとしても一つは「竹」。これまでにない新しい素材として床

材、デッキ材のような商品を出展している会社がちらほら。ヨーロッパには竹は生育していないため、中国かどこかで作っているのではないかと、現地の人の話。



ようという気運が高まっています。

その代表格がこの2つ。1つがCLTと呼ばれる



高層建築にも利用できる木質構造材。写真のような木造ドームなど、予想以上に自由な設計を実現しています。

注目企業は「RUBNER」。建築物はもちろん、巨大ドームやタワーまで建築実績があるようです。

「RUBNER」のブース

【3、木質断熱材の出展企業が多い！！】

とにかく様々なタイプの木質断熱材メーカーが出展していました。近年ドイツの断熱市場において木



「GUTEX (ドイツ)」の木質断熱材

質断熱材のシェアは10%を越えてきているようで、ドイツ国内でも注目の断熱材のようです。日本ではまだまだ普及していない断熱材ですが、日本への進出を検討しているメーカーもあるようです。ドイツ国内最大手メーカーと言っているのが、「GUTEX」。柔らかいものから硬質のもの、いろいろな種類の断熱材があります。

(毎月5日号に掲載します)